

(別紙)

「総合資料館あり方検討プラン」に係るパブリックコメントの要旨
及びこれに対する府の考え方

No1

項目	意見の要旨	府の考え方
全 体	<p>総合資料館が現有する東寺百 合文書・京都府庁文書という我 が国最高のアーカイブズを所蔵 することの意義を深く考えてい ただきたい。機能や性格という 技術的な問題はともかくとして、 資料館が現有する卓越性をいか に積極的に展開するかという観 点から議論をしていただきたい。</p> <p>単なる文書の管理・公開とい う日常業務の繰り返しに終始す るのではなく、総合資料館の持 つ先進性・卓越性を最大限発揮 するとともに、職員諸氏の創造 性・積極性を十分に伸ばすとい う方向で結論が得られることを 切に願う。</p>	<p>この中間案では府立大学をはじめ とする研究機関や研究者などと協働 して、京都に関する専門研究を振興 するとともに、京都に関する歴史・ 文化関係資料の収集・保存とデー タベースの構築、生涯学習等の支援、 次世代の教育支援などの取組を積極 的に展開していくこととしておりま す。</p> <p>こうした取組を着実に推進してい く中で、「京都に関する資料を収集 ・保存・提供する拠点」として、京 都と日本の学術・文化の振興に貢献 するとともに、誰もが身近に利用で きる施設として、発展するよう、努 力してまいります。</p>
	<p>重要文化財指定行政文書をはじ め古文書群を保存活用されていく 事の意義は非常に大きく、後世へ の保存の使命は理解できるが、時 代の風は冷たいものがあり、積極 的に投資を行い国内及び世界的に 「評価される施設」「存在感を認 められる施設や事業内容」ができ る企画力や運営力、求心力を固め るという戦略が必要である</p>	
現 状	<p>問題点として利用者数の減少が あげられていますが、利用者を増 やすには本を増やすことである。</p>	<p>京都に関する図書・資料に専門化 ・重点化し、所蔵資料やその研究成 果を生涯学習や次世代の教育支援に 活かすとともに、館の活動を積極的 にPRすることに努め、より多くの 皆様に活用いただけるよう取組を進 めてまいります。</p>
	<p>きっちりとPRすることが利用 者増 = 存在価値のますますの増大 につながる。</p>	

「総合資料館あり方検討プラン」に係るパブリックコメントの要旨
及びこれに対する府の考え方

No2

項目	意見の要旨	府の考え方
<p>京都に関する歴史・文化関係資料の収集・保存とデータベースの構築</p>	<p>公文書をはじめ、古文書、図書等の京都に関する資料を今後も積極的に収集・保存され、学生や学識者だけでなく主婦や様々な職種の人々も気軽に立ち寄れるような、すべての府民のための活用できるデータベースとして、整備・発信されることを期待する。</p>	<p>膨大な資料の中から知りたい情報に円滑にアクセスできるよう、資料にどのような事柄が書かれてあるか等の資料の詳細な目録を整備するなど、幅広い府民に活用いただけるようわかりやすく発信することに努めます。</p>
	<p>歴史・文化資料の収集・保存の方向性について、事業の推進において記述されていることについて賛成である。</p>	<p>貴重な歴史資料等を収集・保存し後世に確実に伝えるとともに、それらの資料が利・活用していただける施設となるよう、府民の皆様のご意見等を踏まえながら、検討を進めてまいります。</p>
	<p>指定行政文書をはじめ、古文書群を保存活用されていくことの意義は、非常に大きく、後世への保存の使命は理解できる。</p>	
<p>収集対象となる資料</p>	<p>棟札、板碑、墨書土器、木簡等いわゆる非文献資料についてはどのように考えているか。</p>	<p>公文書をはじめ、古文書、図書、写真等の京都に関する記録資料の収集・保存に特化していくことが専門性を高めるためにも重要と考えています。 ご指摘の点につきましては、山城・丹後両郷土資料館、市町村や民間の歴史資料館等の類縁機関との連携を図る中で対応していくべき課題と考えております。</p>
	<p>音声・映像資料の受け入れ体制を整備すべき。語り手の許可を得た上で貴重な証言や映像を残していくことは、今後の郷土史のためにも必要である。</p>	
	<p>資料館が収集されている新刊雑誌類は、大学でもまとまっては見られないものがあると思うため、継続して購読を続けてほしい。</p>	<p>収集する資料を京都に関する資料に特化・重点化していく中で、必要な資料については継続的に収集をしていくこととしています。</p>
	<p>5つの役割の中で、「ネットワーク機能の強化」とあるが、他の機関が調査したもので、データベース化し、再発信することにより、より利用価値が高まる。</p>	<p>関係機関等とのネットワーク機能を強化する中で、対応を検討してまいります。</p>

「総合資料館あり方検討プラン」に係るパブリックコメントの要旨
及びこれに対する府の考え方

No3

項目	意見の要旨	府の考え方
公文書館機能の位置付け	<p>公文書館機能の位置づけには、やや不足感、疑問がある。公文書館の本質は、生涯学習への情報提供でもなく、歴史や文化的視点から運営するものでなく、公文書館機能は組織体の記録を記録管理の部分から制御することでその機能が存立すると考えることから、「公文書館機能は教育機関ではない、行政機関であるべき」という点を盛り込む必要があると考える。</p>	<p>公文書は、府政と府民の歩みを記録する貴重な歴史資料であり、行政の利・活用はもとより、府民の知る権利を保障し、現在及び将来の府民への行政の説明責任を果たす上で、極めて重要と認識しています。ご指摘の点を踏まえ、公文書館機能の位置づけについて記述を充実します。</p> <p>さらに、今後、公文書が作成される段階も視野に入れた収集・保存・利用に関するシステムの構築について、検討を進めることとしております。</p>
	<p>大切な行政文書が棄てられたり隠されたりしないで、資料館に集められるシステムが必要である。</p>	
	<p>市町村の行政文書も適切に保存されるよう京都府、総合資料館の指導と支援を具体的にかつ積極的に位置づけられたい。</p>	
京都に関する専門研究の振興	<p>ほかではなかなか見られない資料・研究書が資料館に数多くそろっていることが資料館の魅力である。今後も専門研究の一層の振興を期待する。茶道、華道、香道、清水焼、京舞、能など京都から発信されている芸術に関し、関係者の協力を得て、京都に関する専門研究の内容の充実を期待する。</p>	<p>幅広い研究機関や研究者の理解・参画を得て、協働しながら、所蔵資料に関する専門研究を振興することとしており、関係機関等の協力を得る中で充実を図っていきたいと考えています。</p>
	<p>京都府立大学とは敷地も隣接しており、文学部との連携を強化されたい。</p>	<p>当館が所蔵する貴重な資料を活用した専門研究の一層の振興を図ることは、当館の重要な施策の一つと位置付けており、府立大学や近隣の大学をはじめとする大学・研究機関や研究者が参画をいただき、協働しながら研究を振興するための方策を検討してまいりたいと考えています。</p>
	<p>人文科学を扱う大学群が近傍にあることを活かして、大学生、大学院生、研究者等が利用しやすい制度、開館時間帯、検索システムなどを導入してほしい。</p>	

「総合資料館あり方検討プラン」に係るパブリックコメントの要旨
及びこれに対する府の考え方

No4

項目	意見の要旨	府の考え方
生涯学習等の支援	<p>多様な世代の自主的・主体的な研究や学習支援を検討するなら、総合資料館を中心に、京都市内や府内に支部組織を設置するなど、生涯学習講座等を受講できる工夫をしていただきたい。</p>	<p>現在、インターネットを活用したデジタル展覧会や所蔵資料の情報発信などを行っています。今後とも、これらの充実をはじめ、関係機関と連携した府内各地での講座等の実施など、より幅広い方に親しんでいただけるよう、生涯学習の機会を充実してまいります。</p>
	<p>生涯学習を担う役割を市町村の役割とすべきではなく、相互に協力すべき点があると思う。</p>	<p>所蔵資料を活用して、子どもたちをはじめ幅広い世代の方々の多様な学習ニーズに対応するため、生涯学習機会の充実を図ることとしており、生涯学習機能がさらに充実するよう努めてまいります。</p>
	<p>夜間開館など社会人への学びの場としても使えるようにされたい。</p>	
ネットワーク機能の強化	<p>他の行政機関との関わりを問題とする前に、京都府教育委員会が所管する丹後・山城郷土資料館があり、本プランにおいてもこれらの施設と競合する点があることから、まず京都府内部での調整を図るべき。</p>	<p>当館は、公文書をはじめ、古文書、図書等の京都に関する文献資料の収集・保存に特化・重点化していくことが、専門性を高める上でも重要と考えています。</p> <p>京都に関する文献資料等をなるべく一括して利用いただけることを大切な理念としながら、両郷土資料館とのネットワークの強化に努めてまいります。</p>
新たな施設整備	<p>新たな施設整備を図られることはうれしいことであるが、財政が豊かでないことが気がりである。近隣の府県にも相談、協力を得て様々な意見を広くとり入れて複眼的視野で進めていただきたい。内容によっては新企画の一部は一般公募で決めるなど斬新な考え方も考慮していただけるような柔軟な姿勢も期待する。</p>	<p>新たな施設整備に向けては、今後基本構想を策定することとしており、幅広い皆様の意見をうかがいながら、誰もが身近に利用できる施設について検討してまいります。</p>

「総合資料館あり方検討プラン」に係るパブリックコメントの要旨
及びこれに対する府の考え方

No5

項 目	意 見 の 要 旨	府 の 考 え 方
そ の 他	<p>最も具体的かつ実質的な提言を行えるのは、日常そこで働いている職員の方々であると思うことから、そうした人々の意見が反映されるような施設であってほしい。</p>	<p>検討委員会におきましても、関係職員によるワーキンググループを設置し、意見交換等を進めてきたところですが、今後とも、努力してまいりたいと考えております。</p>
	<p>京都が日本文化に果たした役割が大きいことに鑑み、NPO等外部の力も借りて、積極的に他府県、海外へもPRされたい。</p>	<p>自主研究サークルやボランティアなど様々な主体との連携により、館の活動を積極的に発信することに努めます。</p>
	<p>電子ジャーナルを導入されたい。</p>	<p>本プランの推進を図る中で、研究・検討を進めてまいりたいと考えております。</p>
	<p>資料の貸し出しができるようにされたい。</p>	
	<p>史料のデジカメでの複写を解禁していただきたい。</p>	
<p>マイクロリーダープリンターの複写料の値下げを要望する。</p>		